

第一回俳句賞「25」奨励賞

屈折率

福岡県立筑紫丘高等学校

春コート菓子の匂ひの旅鞆

学び舎をひびの大きく余寒かな

ロッカーのノートの湿り春寒し

黒板に脳の模式図蝶の昼

暖かやトムもジェリーも出す目玉

まどろみにペン落とす音山笑ふ

白杖の軽やかに過ぐ薄暑光

怒濤以後みな新しき日陰かな

黒南風や駄菓子屋跡地売られをり

読了の涼しき寺の月を見ぬ

夏風邪やティッシュの箱に覚書

記憶では私首振り扇風機

盃蘭盆やトイレのスリッパの乱れ

はつ秋のつげ櫛の齒の暗さかな

燈籠の揺蕩ふううちに雲流る

強情な叔母立ち止まる花野道

子を迎へけり七輪の初秋刀魚

汝もまた流星を待つ列となり

ピント合ふ冬青空の深きまで

神無月光に熱の無きを知る

大げさな社説の見出し蜜柑剥く

底冷えの拳や手術室ひらく

車列縫ひ我が車へとゆきをんな

氷海の先に陸ある舳先かな

初日射す水に囲まれ五陵郭